

あなたをプラスの人生へと導く

# しなんげ

5  
2017

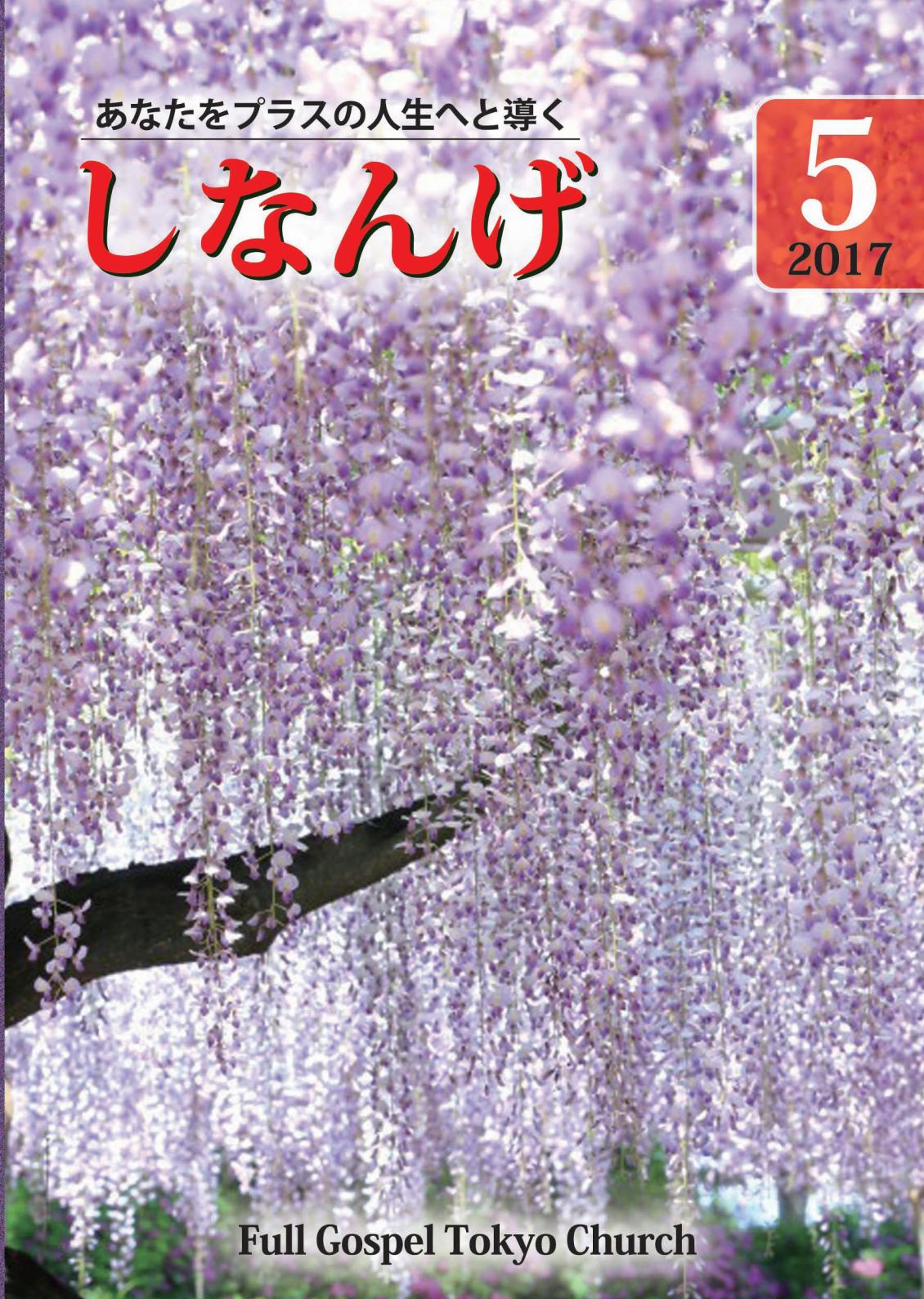


あなたの初めは小さくあっても  
あなたの終りは非常に大きくなるであろう。  
(ヨブ記 8:7)

純福音東京教会・出版部

〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町 22-19 Tel.03-3232-0067 Fax.03-3232-0729 [www.fgtc.jp](http://www.fgtc.jp)

Full Gospel Tokyo Church



## CONTENTS

- 2 「絶対肯定」が踊らせる……………イ・ヨンフン牧師
- 4 ヨンサンコラム ……………… チョウ・ヨンギ牧師  
キリストに捕らわれた考え方
- 6 メッセージ ………………志垣重政牧師  
十字架の意味
- 9 信仰の明文化を成し遂げますように⑬……………イ・ヨンフン牧師  
すべてのことを働かせて益としてくださる
- 14 主と歩く ………………ヘンリー・グルーバー牧師  
この地に臨む「神の御国」
- 19 我が人生のプラス……………
  - ・エン・ハコレの神様——呼ばわった者の泉
  - ・イエス・キリストだけが私の自慢です
- 28 牧会の香り……………ゴ・フン牧師  
命を延ばす聖徒の祈り
- 32 メディア断食キャンペーン……………キム・ソンホン記者  
メディアを絶てば次の世代が生き残ります
- 34 世の終わりの日まで……………ソン・ヒョンギョン牧師  
清教徒との出会い
- 40 統一時代を開く……………ベン・トレイ牧師  
連合の神学第二ラウンド

この「しなんげ」は、おもに韓国版信仰界3月号より抜粋して、翻訳し再構成したものです。  
ちなみに、聖書の御言葉は「口語訳」を引用しています。

## 「絶対肯定」が踊らせる

「ありがとうございます。感謝します。愛します！」

私たちの教会の長老の皆さんが最近、このようなスローガンを掲げ、積極的に会う人たちと挨拶を交わしています。その言葉を聞くと、どんなに気持ちがいいかわかりません。否定的な心の残雪が、あたかも春の日差しで解け落ちるように消え去ります。そして、明るい光が舞うように心に近づいてきます。良いことが起こりそうです。知恵のある人は「心地よい言葉は蜂蜜のように、魂に甘く、からだを健やかにする。」(箴言 16:24) と言います。

言語とは存在と人格の表現です。「心地よい一言、温かい言葉」は、『絶対肯定の信仰』から生まれます。ですから、私たちはいかなる困難の中においても、暗い環境に捕らわれず、より良い明日を見つめて肯定的で、明るい言葉で人生を切り開いて行かなければなりません。これが、私たちの人生を躍らせるのです。

先日、英 BBC が学術誌「生理学と行動 (Physiology & Behavior)」の最新号に掲載された、英グラスゴー大学研究チームの研究論文を引用し報道しました。この研究チームは、スコッ

トランドの動物保護団体と一緒に保護施設の犬を研究した結果、犬も明るくて陽気な音楽を聞いたとき、断然健康になったということでした。2つのグループに分けて調査した結果、陽気な音楽がストレス解消に大きな影響を及ぼしたとのことです。面白いのは、その音楽の好みが明らかになったが、それは「ソフトロック」と「レゲエ」でした。犬も気持ちの良い音楽で変わるので、まして創造主の形に似せて造られた人間が、肯定的かつ積極的な態度に変われないはずがありません。

最近、私たちは悪口と呪いが氾濫する世の中に住んでいます。一方、とてつもないデマが拡大・再生産されています。人を殺そうとする殺傷用言語は、もはや廃棄処分しましょう。祝い歌を歌い、踊らせる「絶対肯定」の言語を共有しましょう。結局、人生は祝い歌を歌いながら喜んで生きるのか、レクイエムを歌いながら暗く生きるのかに分かれます。「共に働いて、万事を益となるようにする」信仰、これが絶対肯定の信仰であり、この信仰からはじまった言葉が社会を踊らせるでしょう。†





## キリストに捕らわれた考え

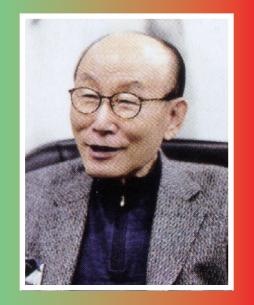
私たちが毎日戦わなければならない戦いの中の1つは、私たちのすべての考えを捕らえ、キリストに服従させることです。私たちはある人の考えを捕らえると、その人の行為を思いのまま動かすことができます。それで今日、私たちの心はイエス・キリストに捕らわれなければ、私たちは肉身の情欲、目の前の情欲、この世の誇りに捕らわれ、滅亡の道を歩むようになります。

それでは私たちの考えはイエス様に捕らわれる時、私たちにどんなことが起こりますか。まず生命と自由と祝福を享受するようになります。なぜなら、イエス様の中には罪と死と悪魔から解放されて、平和と生命の富を得ることができるからです。それでは私たちの考えがイエス様に捕らわれて、私たちの生涯が生命と自由と祝福を享受するためには、どのようにするべきですか？

第一に、キリストの考えに私たちの考えが接がれなければなりません。良いオリブに野生のオリブが接がれると、良いオリ

### チョウ・ヨンギ 牧師

単一教会として世界最大規模であるヨイド純福音教会の元老牧師として仕えている。筆者は、美しい社会作りへの参加と、真の福祉社会のために、キリスト教精神を基にして設立された「ヨンサン・チョウ・ヨンギ慈善財団」の理事長として、第二の働きを繰り広げています。



ブの実が結ばれます。同様に神様の御言葉を通して私たちの考えがイエス様の考えにつがれるとイエス様に捕らわれます。

第二に、私たちは、イエス様に捕らわれるため聖霊様に頼らなければなりません。私たちは聖霊を認めて歓迎して受け入れる時、聖霊様は私たちの考えの中に来られ、ただイエス様だけを考えて神様の栄光だけを考えるように導いて下さいます。

最後に、私たちの考えがイエス様の考えに捕らわれるためには、御言葉を口で告白しなければなりません。イエス様を信じる人とイエス様を信じない人の違いは言葉にあります。信じない人は世の言葉を話します。彼らは「できない、死にそうだ、駄目だ、絶望だ」と言います。

しかしイエス様を信じる人々は、「もしできれば、と言うのか。信じる者には、どんな事でもできる。」（マルコ9:23）という聖書的な言葉を話します。そしてこのような言葉は私たちの考えを捕らえ、イエス様の中に留まるようにします。

ですから今日一日も、イエス・キリストの中で創造的で、肯定的で、生産的な、天国の言葉を通して、皆様の考えをイエス・キリストに捕らわれるようにしましょう。そうする時今日、生命と自由と祝福の中で生活することができます。†



## メッセージ

純福音東京教会 志垣重政 牧師

# 十字架の意味

ヨハネによる福音書 19章 30節



今から2000年前の十字架刑は、ローマ法においても極刑であり、ユダヤ法に至っては、「呪いを受けた者」に対する処刑でした。イエス様は朝9時から午後3時までの6時間、極度の苦痛をお受けになり、運命を迎える直前、「すべてが終った」と宣言されました。イエス様は、一体何を成し遂げるために苦難をお受けになられたのでしょうか？

まずは、天地創造を成し遂げられた神様について考えてみましょう。神様は6日間で天地万物を完成され、エデンの園を備え、最後にアダムとエバをお造りになりました。彼らがすべきことは、神様を崇め、従順しながら、天地万物を治めることでした。そこには、憂いも悲しみもなく、神様中心に生きることが、最高の幸福だったのです。

ところが、悪魔が巧妙に仕掛けてきて、神本主義で暮らすべきところを、自分の力に頼る人本主義を植え付け、神様から離れさせます。それは、水源を失った水が腐敗していくのと同じで、滅びへの道を選択したことにほかなりません。アダムとエバが、



すると、イエスはそのぶどう酒を受けて、「すべてが終った」と言われ、首をたれて息をひきとられた。  
(ヨハネ 19:30)

自ら犯した反逆により、エデンの園から追放されたのは、当然の帰結だったといえます。

もし、人間に問題解決能力があるのなら、大事件と呼ぶには至りませんが、残念ながら、人間は問題に対して、あまりにも力不足でした。罪の問題、病の問題、悪魔の問題、呪いや貧しさの問題、そして死の問題——このような外的問題を前にして、人間は、慌てふためくだけの存在しかありません。さらに、人間にはどうすることもできない内的な問題があります。憎しみ、怒り、不安、恐れ、落胆、失望、そして挫折の問題により、人は立ち上がることすらできなくなります。神様を離れ、人間を崇め、信頼し、人間の力で生きていこうとした結果でした。科学が発展したからといって、問題の本質には何ら変わりがありません。これが人間の限界なのです。そこで父なる神様は、わたしたちをこの苦しみから解放させる決心をなさいました。

神様は、御子イエス・キリストを通して、もう一度働いてくださったのです。神様はイエス様を通して、その御旨をわたし



たちに示してくださいました。それは、カルバリの十字架でした。罪を解放し、病を癒し、悪魔悪霊を追い払い、呪いと貧しさから解放し、死さえも克服すること——これが、神様の御旨でした。

「まこと彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。しかしに、われわれは思った。彼は打たれ、神にたたかれ、くるしめられたのだと。しかし彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために碎かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与える、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。」(イザヤ 53:4～6)

——これこそ、神様の御旨、神様のみわざなのです。そして、わたしたちにもう一度エデンの園に入る権利を与えてくださいました。わたしたちはすでに永生を受け、限りない命を受け取ったのです。

「すべてが終った」という表現は、聖書に2カ所しかありません。一つは天地創造を終えられた時、もう一つは、今日の本文です。最初の天地創造の後も、イエス様を通した創造の後も、準備されていたのは、『神様の安息』です。その平安の中で暮らす皆さんでありますよう、主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。†



すべてのことを働かせて  
益としてくださる



### 50歳を過ぎ再びアメリカへ

ワシントンの生活を終え、韓国へ定着した。チョウ・ヨンギ牧師先生は教会横にあるチョウォンアパートを家として準備してくださいました。数年間、このアパートで暮らしながら熱心に教会に仕えた。その後、再び牧師様の命を受け、アメリカ・LAへ渡り、ベセスダ大学 (Bethesda University) 総長として在職した。この学校がアメリカ政府の認定する学力認証機関から、正式に認可を受けるまで約2年間働いた。ベセスダ大学は、韓国系の学校としては最初に学力認可を受けた大学となった。そして、チョウ先生は、私を東京へ送られた。

日本に渡る前、挨拶をするために訪れた時、チョウ先生は私にただ一言だけ

「行って、教会を建てなさい。」と話された。東京に渡った1年

後、約20億規模の8階建の建物を購入、建物全体をリフォームし、献堂礼拝を捧げた。その後、召しを受けて韓国に戻り、ヨイド純福音教会の教務副牧師として使役した。その時、私はこのように考えた。

「私の年齢は、もう知天命（50歳）を過ぎた。これ以上、海外に引っ越すことはないだろう。」

私は国内での安定した牧会を夢見た。しかし、予想もしなかつたことが起きた。アメリカのナソン純福音教会に困難が生じ、ヨイド純福音教会に牧会者の要請がきたことだ。その時、候補に二名の名前があがったが、そのうち一人は教会を開拓するということで、私に注目が集まった。チョウ・ヨンギ牧師先生は、再び私を呼んだ。

「イ牧師、あなたがナソン純福音教会へ行くのはどうか。」

「先生の命令に従順します。」

先生はまた質問された。

「従順を要求するのではない。今、イ牧師の正直な意見を聞いているのだ。どう考えるか。」

私は牧師先生が、心の中で既にアメリカへ私を送る意思を持っておられることを感じられた。だから余計なことを言わず、お伝えした。

「先生のお言葉に従順します。私が行きます。」

牧師先生はとても喜んでだ。少しも躊躇せず、従順することに対して満足な表情だった。多分、日本で使役を終え50歳を過ぎた私を、再びアメリカへ送ることを気の毒に思われたようだった。ヨイド純福音教会を離れ、単独で使役をしないのであれば、チョウ牧師の言葉に従順することが、すなわち神様の御言葉に従うことなのだと考えた。副牧師が担任牧師の言葉に対して、

「祈ってみます。」ということは正しくないというのが私の牧会の哲学だ。なぜなら副牧師は担任牧師の牧会の権威のうちに入っているからだ。結局50歳を過ぎた年齢で再び荷物をまとめ、アメリカに牧会の場所を移した。

### 静かに「神様の時」を待つ

今まで生きてきた中で、もっとも大切に思う聖書の御言葉がある。辛く悔しいことにぶつかった時、苦しみにあった時、巨大な人生の波の前で落胆する時、その時ごとに慰めと力を与える御言葉がある。それはローマ人への手紙8章28節だ。

「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」

この御言葉の中には絶対肯定の信仰が含まれている。逆境に遭うたび、この御言葉を默想すると力が湧く。聖書の人物の中で私が一番好きなのは、ヨセフだ。ヨセフのいばらの道であった13年間を考えてみよう。どんなに悔しいことが多かっただろうか。兄弟たちに裏切られ、エジプトに奴隸として売られ、嘘の訴えにより獄生活をし、真実から徹底的に目をそらされている現実の前で、ヨセフはその誰にも不平を言わなかった。多くの悪行と侮辱に対して不満をこぼさずに許す、という大きな愛を見てくれた。

ヨセフの13年を考えると、私が受けてきた困難な出来事は本当にちっぽけなものだ。だから私は時に、悔しいことがあっても弁明しない。なぜなら一旦心が歪んだ人は、その弁明を材料に新しい攻撃の仕方を探すからだ。勿論、本当に悔しい時、時には眠れずに苦しむこともある。

しかし、静かに「神様の時」を待つ。その苦しみは靈的な目覚めのチャンスとなる。また、私自身の足りなさを省みる時間になる。牧会や教団の活動をしながら、ある人たちから「あなたを法的に告発する。」という脅迫を受けたことがある。また告発を実際に受けたこともある。自分自身の立場を支持しないという理由だった。その時も私の心は少しも揺れなかつた。不平も言わなかつた。驚くことに平常心を保つていた。その理由とは何か。神様が私たちと共に働くかれていることを信じているからだ。

#### わが主イエスよ あいをば ※韓日聖歌 511 番

私は長老教会の伝統の中で育つた。長老教会で学んだことは徹底的な「御言葉中心の人生」だ。純福音に来て学んだことは「聖靈充满」と「絶対肯定」だ。長老教会と純福音の長所をそのまま受け入れ体得したことが、私には最高の靈的な資産となつてゐる。

私たちが神様の旅人のような民としてこの世を生きながら、本来の故郷である天国へ行くその日に、どのような告白することができるのか。この世は、クリスチャンたちがしばらくの間、移民として生きている他国であり、私たちは地球村の異邦人であるだけだ。私たちの本籍は天の御国だ。私は最後に、韓日聖歌 511 番「わが主イエスよ」の贊美を歌いながら主に会いたい。

わが主イエスよ ひたすら 祈り求む 愛をば ませたまえ 主を愛する愛をば 愛をば (1 節)

いまわの息 かすかに 残るときも 愛をば ませたまえ 主を愛する愛をば 愛をば (3 節)

ヨイド純福音教会の担任牧師になった時、私を心配する方々が

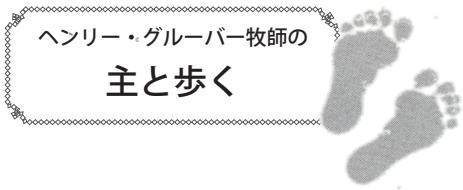
静かに『神様の時』を待つ。  
その苦しみは靈的な目覚めのチャンスとなる。  
また私自身の足りなさを省みる時間になる。



とても多かつた。ある人々は、巧妙に仲たがいさせることで人間関係を乱した。このような策略や仲違いさせることは、9年過ぎた今も続いている。その策略と攻撃は多様で悪意的だ。

「イ牧師があまりにおとなしく、何にも出来ない。優柔不断で決断力が無い。教会の負債が増え、教会運営が厳しいらしい。目上の方の前では尊敬するふりをして後ろでは攻撃している……。」

本当に多くの話がひっきりなしに回っている。私はこのようなことに対していちいち説明はしない。説明すること自体が恥ずかしい。ヨセフは多くの策略に弁明しなかつた。私も弁明しない。時間が過ぎればすべてのことが火を見るより明らかに、明るみにでる。しかし、その時間が少し長く掛かるだけだ。娯楽ゲームの中で「もぐらたたき」がある。ハンマーでもぐらを叩けば、他のもぐらがずっと頭を出している。しかしそのまま放つておくと、どんどん跳ねながらとまる。周囲の策略と攻撃に対して私は沈黙を貫く道を選択した。†



## この地に臨む「神の御国」



ヘンリー・グルーバー  
(Henry Gruver) 牧師

「世を歩くとりなし祈祷者」で知られた筆者は18歳の時からアメリカのアリゾナ州フェニックスの犯罪多発地域で主と共に歩き始め、今も主と共に歩いている。彼は全世界のどんな場所でも、出会った人たちのために祈り、福音を伝えている。彼の人生には超自然的な不思議が多くあったが、より大事なことは、彼が主の御言葉に従順しながら歩き、祈っているという事実だ。

「御国がきますように。みこころが天に行われるとおり、地にも行われますように。」(マタイ 6:10)

私はロシア（旧ソ連）が崩れる頃、シベリアを歩きながら祈った。ペレストロイカ（旧ソ連のゴルバチョフ前共産党書記長が実施した改革政策）によってロシアの鉄の壁が取り除かれるころだ。シベリアの地下教会の集いにも参加して、神の素晴らしい摂理によって数千名の軍人たちに聖書を配って福音を伝えたりもした。シベリアを歩きながらとりなしの祈りを終えたとき、聖霊は私に、その地域の大きなグラウンドを借りて癒しのため

の集会を開くようにと感動を与えてくださった。ロシアで幅員を伝える集会は許されない時だったが、私は従順した。

聖霊は、「キリスト教癒しのための聖会を開きます」とはつきり伝えなさいと示された。私は肌に凍みるシベリアの風に打たれながら共産党事務室に向かった。数多くのクリスチヤンが殉教された地域を祈りながら歩いたので、更に寒く感じたのかも知れない。しかし、常に良き友であられる聖霊は、私を深い平安で満たしてくださった。

通訳者を通して、キリスト教・癒しのための聖会開催の許可を要請したとき、私たちの書類を受け付けたロシア人はどこかに電話をかけた後に、共産党本部の人が直接来て処理するので待つようにと言った。しばらくすると威張っているような歩き方で一人のロシア人女性が事務室に入って来た。事務室の中の人は全員立ち上がって彼女を出迎えたので高い職位の人ようだった。

彼女は私が来る前に共産党中央本部から、ソ連での宗教集会を許可するという公文を受け取ったと言った。聖会要請書を読んだあと、どのように癒すのかを聞いたので主が癒されると答えた。彼女は、放送局が中継をしてもかまわないと質問した。聖霊は良いと答えるように示された。急にことが大きくなってしまったのだ。私はその地域の地下教会の兄弟姉妹の助けを受けて簡単な印刷物を作り、聖会の宣伝をした。

癒しのための聖会が開かれる日、広い体育館の座席がいっぱいになった。ロシアは貧しくて病院の施設も乏しく薬もまともにそろっていなかった。病気にかかった多くの人々が集まってきた。患者服を着ている人たちも前の席に座っていた。私は時々

癒しのための祈りをしたことはあるが、癒しのためだけの集会を導いたことはなかった。私に癒しのための聖会を開くほどの癒しの賜物があるとは思っていなかったので、内心心配したが聖靈が来られて癒しを施された。驚くほどの奇跡が起こった。父なる神の御国がロシアに臨んだ。父のみこころが天でのようになロシアでもなされた。ロシア放送局が全国に向けて放送した初めてのキリスト教聖会だった。多くのロシア人たちが主の素晴らしい御わざを目撃した。

アメリカはロシア（旧ソ連）との冷戦で勝った。鉄の壁は崩れて、驚く事に聖靈がロシアを訪れられた。ロシアに大きなりバイバルが起きる前兆と思われる聖会だった。

その後しばらくの間はロシアのどこに行っても多くの人たちが私に気付いていた。それで、聖靈の導きに従って歩きながら取り成すという私の召命を果たすことが難しくなった。主は、その後、私をロシアに使わされなかつた。自由民主主義が勝利して、いまは誰も共産主義や社会主义に騙されないはずだと思った。

## 共産主義の靈とイゼベルの靈

しかし、案外に私は自由民主主義国家の中でヨーロッパ式共産主義の靈とイゼベルの靈が勢力を掌握して行く過程を見た。アメリカは経済と軍事力においての優位を使って共産主義旧ソ連を屈服させた。しかし、その後、ヨーロッパ式進歩主義左派は、アメリカとアメリカ文化の影響を受けた国家間で、文化を通じてさらに勢力を拡張させていた。進歩主義左派は言論とハリウッド映画界、芸能企画社、アカデミーを掌握して同性愛、性革命、

家族崩壊、権威排除、多元主義的宗教觀などを彼らが作る映画、ドラマ、ニュース討論などを通して人々に広めた。

文化的共産主義はアメリカで勝利して來たのだ。アメリカの企業言論社らは政治的正しさという言語検列を通してクリスチヤンがキリスト教的価値觀を表現できないようにふさいだ。政治的正しさという言語検列でアメリカを左傾化させて來た勢力は性的純潔、愛国心、夫婦間の純粹な愛のような聖書的価値觀に女性嫌悪、性少数者差別という烙印を押して、不適切なことのように扱つた。

ヨーロッパから渡ってきたイゼベルの靈が進歩主義左派という仮面をかぶつて、世論を左右する力を持っている言論、映画など、芸能界、文化界、大学を掌握してきたのだ。イゼベルの靈はクリスチヤンたちを黙らせて社会の外に追い出して來た。政治家らはクリスチヤンの支持を得て當選した後、約束を破つて、意味のある変化を全く起こさなかつた。そのような過程を経てクルスチヤン国家アメリカで同性結婚が合法化されることになったのだ。

同性愛は罪であるという真実を伝えることが不法となる状況の中で、敵が教会の門から入つて来ようとするとき、主は選挙を通じて2016年大きな政治的奇跡を起こして下さつた。暗闇が深いほど夜明けは近い。今まで企業言論が進歩主義左派を伝えるイゼベルの靈によって掌握されて、インターネットやソーシャルメディア、ラジオを通して真実が明かされて、クリスチヤン、平凡な市民たちがキリスト教の価値を討論しながら国家の進むべき道に対して目を覚まし始めた。このような力が集まつてアメリカを危機から救いだした。

私たちが戦う戦争は靈的なことであつて血肉によるものでは

ない。イゼベルの靈と共産主義の靈は暴力、偽り、脅迫、淫乱の靈だ。イゼベルの靈と共産主義の靈を縛りつけて、すべての隠された真実が開かれ、不義の勢力が当然の裁きを受けるよう、聖徒の権威を使用して縛り、宣言し、祈らなければならない。

### 大きなりバイバルの時が来ている

一時期、共産主義が恐ろしい勢いで全世界に拡散したことがある。世界の3分の1の国が共産化された時もあった。彼らはキリスト教を否定して殺したが、その共産国家が、今、北朝鮮以外は存在しない。

中国も大きなりバイバルが来た。ロシアにも大きなキリスト教リバイバルがあった。逆説的なことに、ロシアはUNとアメリカ、ヨーロッパの国々の圧力があったにもかかわらず同性愛を禁止させてキリスト教文化を復活させて来た。

2016～2017年、世界いろんな国で指導者が替わる選挙がある。この選挙を通してイギリス、アメリカ、そしてヨーロッパの多くの国の中からイゼベルの靈と共産主義の靈を打ち破るエヒウの靈を持った指導者が立てられている。

イゼベルの靈は言論を掌握して教会が真理宣言、預言者的宣言をできないようにして教会を沈黙させようとする。教会は宣言を通して治める。教会はイゼベルの靈の前で決して沈黙してはならない。暗い世の中で、教会だけが希望であり、教会だけが真理を宣言する。父の御国が強力に臨み国家全体を変化させるであろう。大きなりバイバルのために、世の中が準備されつつある。†

### 我が人生のプラス | 我が人生の最高の贈り物



キム・ジョンジャ  
勸士、全国教役者宣教会会長

## エン・ハコレの神様 —呼ばわった者の泉

小さな村で生まれた田舎者が、私だった。前の山や裏山のレンギョウやつつじの花を見ながら、自然の素朴な、くもりのない明るさの中で子供時代を過ごした。伝道の早天の鐘が、周囲から果てしなく鳴り響いていたが、その音を聞くようになったのは、30代後半のある日だった。すでに肉体は中年期を迎えたが、靈は生まれたての赤ん坊のような不安定な状態で、かなり遅く信仰の道を歩むことになった。

### 奴隸の生活

幼い時の家庭環境は、迷信とあらゆる雑神にも仕える精神的に不毛の地と同じだった。醸造所、政府の精米工場等の大きな事業をする事業家の豊かさの中で、物質の不足は知らなかつた。巫女が数日間泊まつたり、1年に数回ずつ開かれるグッ（シャーマニズムの儀式）を準備したりした。近所の人たちが見に来るほど派手な宴であり、私はまた、これらの偶像礼拝を見ることが、子供の頃には、ひたすら楽しいだけだった。母の生真面目で盲目的な偶像崇拜の世界観は、完全に悪の勢力に捕らわれた状態だった。

今、子供の頃を振り返ってみると、迷信の声に支配された生



8年祈り続け、  
孫をプレゼント  
してくださった

活は、いつも不安で、平安がない精神世界の中、何かに追われるようないライラとして命を失った闇の沼だった。易学者たちの言葉に従わなければ死にそうになり、知性と理性を麻痺させる恐ろしい闇の破壊力に盲従する私の姿があった。精神的な混乱と無秩序と暗やみに陥り、外觀は、知性と教養と人格を備えた知識人であったが、内面の世界は、偶像と術数に盲従する奴隸の生活だった。

夫は、青少年期に教会に通いながら、キリストの学生会長までなり、教会の週報を作る大きな奉仕をするなど、青少年時代から信仰があった。しかし、教会の牧師様の不正を見て、教会を離れ、信仰を遠ざけた。それでも、巫女や占い師など偶像を密かに尋ねている私の面影には、いつも懷疑的だった。夫婦とも不信仰の中にあって、表向きには暮らしは平穏に見えたが、中身は少しづつ、きしみ始めた。

二人の息子、一人の娘がいる30代後半に入り、同じ学校の教師の家族から、不動産詐欺にあった私に対する夫の恨みと文句で家庭不和が始まった。夫に昼も夜も苦しめられる苦痛は、耐え難い心の台風であり、地震であった。夫によって、心のやすらぎが必要となった1970年代の後半、友達の粘り強い伝道で半ば強引に導かれた所が、汝矣島（ヨイド）純福音教会だった。

偶像とともに過ぎ去った私の人生の道では、想像もできない事件だった。

### 聖靈の豊かさ

私が神様に出会ったら、昔、信仰の人だった夫も帰ってきて、家庭の平和を見つけるという友達の粘り強い伝道によって、汝矣島（ヨイド）純福音教会を訪れた。初めて接した教会の雰囲気が気に入らなくて葛藤する時、人を見ないで神様を見ろという友の忠告から、教会に続けて行くことになった。あんなに多くの人の感謝と感動の表現（手を上げて異言で泣きながら叫ぶ積極的な表現）に演技がないのだから、あなたも、神様に出会って、自分の痛みと苦しみと悲しみを告白しなさいということだった。

教会に通ってからちょうど一ヶ月が過ぎて、周囲の声に耳を貸さなくなり、周りのうるさい祈りの声より自分の声に集中でき、友達を失ったことや、裏切りと財政損害の悔しさ、夫に対する悔しさなど、数々の悲しさと複合された嘆きが涙となって表出された。以降、神様の恵みの味と救いの神秘を体験した。心の台風が湖畔の穏やかな感じに変わり、解決されたものは何も無かったが、暗かった心の中に強い太陽の光が入って、まずは生きようと、心が明るさに照らし出され始めた。何より夫に対する悔しさが減り、夫を許し、家庭に平和が戻り始めた。

神様に出会った不思議で驚くべき出来事で、私の人格は、100%変わった。主日礼拝は3部まで捧げ、金曜徹夜を夜明けの4時までしながらも、常に物足りなさと神様に対する渴望が残る体験をすることになった。全世界が聖なる光で、また、天から聞こえてくる新たな品位で、私の心全体にエネルギーが満

ち溢れ、神様、イエス様、聖霊の豊かさで満たされた。その感動の情熱が伝道への情熱に変わり、実家の両親、十一人の兄弟姉妹たちに対する伝道が始まった。

実家の弟嫁が最初に伝道された。昔に哲学館、疫学者、占い師と一緒に探し回ったその弟嫁だったので、みんな驚いた。どうしてあんなに変わったのかと悔しがったが、眞の平安を味わって分かるようになった私の信仰の世界は、すべての精神世界が明るさで照され、今まで、変わらない明るい心の天国が持続された。

その時、全国教育者宣教会の初期に、学校宣教の一端として、学校へ行けば教師、生徒、保護者への伝道に必死になり、区域長、組長に任命され、伝道への情熱的な人生へと変わった。キム・スウン長老（塩長老）が、次男の担任となって、汝矣島（ヨイド）のソウルマンションから永登浦（ヨンドゥンポ）一帯の先生60人が集まって礼拝を捧げることとなり、その後、全国教育者宣教会の副会長7年、会長5年を献身的に従順した。

年に二回の休みを利用して修練会を開く時に、講師招聘が、私たちの教会の最高水準に達する事が、天からくださったインドや全国教育者宣教会の重要な献身の作品だ。天から降りてきた儒教協会会长の父と仏教協会会长の母は、イエスを信じて天国に入城し、11人兄弟の9人がイエス信じて天の恩寵を享受するようになり、偶像崇拜に疲れ果てた家庭が、エンハッコレの神様、すなわち、呼ばわった者の泉となってくださった神様の家庭に変化した。エンハッコレ愛の運動は、17年目を迎え、自立していない教会と北朝鮮の支援を行い、また、各宣教団体などの会員30人以上が、一緒に80カ所以上を今まで支援しながら愛の実を交わしている。全てが神様の恵みによって始め、キリストの愛で今も進行されている。†

我が人生のプラス | 我が人生の最高の贈り物



ソ・ソクチョル

牧師、キンポカンファミルアル教団団長

## イエス・キリストだけが 私の自慢です

私は幼い頃に受けた火傷のゆえに、顔の右側に大きな傷痕があり、また右手は火傷によって収縮している。そのようなハンディキャップを持って委縮して生きていた。そんな中、高校1年の時（1975年）、友人の勧めで教会に行くようになった。しかし、1学年の終わり頃から墮落の道に足を踏み入れ、行事だけに出席する聖徒へと転落してしまった。遂には世俗に深入り、長い間世的な快楽におぼれて生きていくようになった。その渦中、神の介入で教会に戻ったり、また離れたりを何度も繰り返した。そして35歳の1994年10月に、私が勤めていた会社が倒産した。私は職を失い、それからずっと経済的に苦しい日々が続いた。その上、なおも不幸は一斉に私に襲い掛かって来た。

1994年の末だった。寝ている間に肩と肩甲骨に猛烈な痛みがはしり、私は部屋の床に倒れ、ごろごろ転がるほどの強烈な痛みのゆえに、一晩中一睡もせず夜を明かした。それから病院を転々とし、針、灸、MRIの撮影など、あらゆる面で診察をした。

しかし、原因は分からなかった。それからというもの、夜になる度に、恐怖心に陥った。夜になると、激痛と全身の力が抜けて、コップの水も持ち上げることができなく、新聞さえも持



愛する家族と共に

ち上げられないほど、体は日に日に衰弱していった。

どうしようもない貧しさと、原因不明の疾病で、顔には血色がなく、本当に苦しくて辛い毎日だった。そうして1995年の春を迎えた。3月頃、軽障害者宣教団体である仁川市麦粒宣教団の無料診療の案内状を持って、わらにもすがる思いで診療を受けに行った。当時、無料診療所は教会の空地にあった。教会に入った瞬間、あわれな自分の姿が、まるで放浪息子と重なって映る気がした。胸の底から熱く涙がこみ上げてきた。神様が触れてくださっていると感じだ。

それ以来、私は麦粒宣教教会に出席しながら、奉仕者として無料診療にたずさわるようになった。そして、1995年12月1日に使役者たちの会議で、次の年からの使役者として内定された。使役者に決まってから9日が過ぎた12月10日、当時七歳になる長男が、教会に行く途中で交通事故に遭い天に召された。

とてつもない厳しい現実に、私は何にもできなかつた。なぜなら私は、高校時代から教会に通いながら、世的な快楽におぼれて暮らし、苦難の末に信仰を回復し、牧会者としての人生を生きると決断した時だった。そんな私に、神様は長男を連れて

行かれるという、大きな試練をくださつた。その時も私は、すべてのことを自分の罪のせいにした。他の人は、神様に抗弁を述べたり泣き叫んだりしても、私にはそれさえ言える資格もないと思った。

果たして私は、神の御前でどんな姿だつただろうかと自分を振り返り、嘆きと息子を亡くした悲しみの涙だけを流し、「今まで主のために働くなんて、考えたこともなく生きてきた。なのに、子どもに先立たれたいま、牧会とはどういうことだ。」という思いで、神様の懷から再び逃げようとしたとき、「あなた、今度が最後だ」という神様の声が聞こえてきた。

驚きながらも心を落ち着かせ、改めて考えてみた。長男はいなくなってしまったけれども、妻と次男がいる！私は弱い自分を認め、神の御旨に屈伏した。そして3週が過ぎ、やっと使役を開始した。

私よりも障害者たちの面倒をよく見ていた息子に、恥ずかしくない親になろうと決意した。インチョン・ミルアル（仁川麦粒）宣教団での働きをはじめとし、ウイジョンブ・ミルアル（議政府麦粒）宣教団を経て、2006年7月からは、神様の恵みでキンボカンワ・ミルアル（金浦江華麦粒）宣教団団長として仕えている。

私には、このような私の痛みを神様が用いられるという確信があった。それは、私が辛かったときのその苦難を経験するようにされたのは、私と同じ苦しみに遭っている人々に真の慰め手、ないしは癒し手として用いられると考えたからだ。

聖書には悪霊に憑かれた人の話が出ている（マタイ8章、マ

ルコ5章、ルカ8章)。悪霊に憑かれた者がイエス様に出会い、彼の生き方が完全に変わった。彼はイエス様にお共したいと願つたが、イエスは彼を帰された。そこで彼は、イエス様に言われた通りに故郷デカポリスへ帰り、イエス様が自分にしてくださったことをことごとく町中に言い広めた、という記録がある(ルカ8:39)。

彼は、福音を伝えることに何も不自由を感じない人を対象にしただろうか。あるいは、彼が福音を伝える過程で悪霊に憑かれた者に遭遇したとき、自分が悪霊に憑かれていた自身を思い出し、悪霊に憑かれたその人に命をかけて福音を伝えられるであろう。

すべての苦難には訳がある、自分が苦難に陥り、苦しみに耐えられてこそ、苦しんでいる人たちを慰め、癒すこともできる。私たちが経験したその苦難の辛さは、私たちが理論的に誰かを教えるよりも、各自の経験を通して共感をもち、それによって彼らの痛みをも癒せる、癒し手として用いるための神様の驚くべき宣教戦略だと思う。

これは、まさに神の大いなる宣教戦略とも言える。自分が先に経験し、その辛い痛みと苦難の時間を…また障害者で、息子を亡くした絶望感を…その痛い経験を用いようとされる神の計画に、私は預言者イザヤのように、「ここにわたしがおります。わたしをおつかわしください」(イザヤ6:8)と従順するだけだ。

振り返れば、私は、裕福な家庭でもない、外形的良い身体でもない、学歴もない、時代にあり触れている色々な資格を持っているわけでもない、頼れる身内もない、それどころか、火傷の傷を持って障害者という、人からの偏見と社会的望ましくな

い苦しく辛い道を生きるしかなかった。

私は、たくさんの試練の中でミルアル宣教団を知り、周りの人たちからの勧誘を拒みつづけていて、世の幻を追い続け疲れ果てた時に、40歳を越えて神様の召命に従順した。10年間の神学勉強の末に、2012年神学修士を終え、2014年牧師按手を受け牧師になった。

私の過去、現在には、世間的な基準から自慢するものは少しもない。ただ、世の中の痛々しい苦い経験と、たどり着きたくない、幼い頃からのシミがついた過去を隠し、話したくない思いを持つだけ。世の人が自慢している輝きの時代が私にはなかった。そんな私が今、告白することは、イエス・キリストだけを自慢する。死んで当たり前のような私を救ってくださり、過酷な試練の過程を通して整えられ、癒して下さり、主の僕となるようにされたお方、愛する妻と尊い二人のお息子を与えてくださり、素晴らしい幸福な家庭を築くようにしてくださり、まるで運命のように、障害者宣教の最前線ともいえるミルアル(麦粒)宣教団で牧会するように、予め計画し道を開いてくださった方、私の過去と現在、そして私の未来までも介入し導いてくださる方、私の唇を通して過去の苦難までも祝福だと告白するようにされる方……その方だけが私のすべてであり、私の自慢だと告白する。

それが「なぜ障害者のための働きを選んだのか?」という質問に対する私の答えである。

「わたしはあなたのはかに、だれを天にもち得よう。地にはあなたのほかに慕うものはない。」(詩編73:25) †

## 命を延ばす聖徒の祈り



15年前筆者はすい臓がん、十二指腸癌、リンパ前癌、胃がん末期診断を受けてS病院に入院し胃の半分、すい臓1/3、リンパ前と十二指腸全部を摘出する9時間の大手術をした。その時、筆者の歳は55歳だった。主治医キム・ヨンイル博士は「先生、手術後3か月を生きるとしても私たち医者の30年の命より尊い時間ですよ。」という言葉が手術を許可した理由だった。摘出した臓器は20kg。手術後、化学療法と放射線治療を進める医者の診療を祈りで従順した。その後、手術と放射線、化学療法の後遺症により肺炎が3回、5日間の脳死の状態で臓器が腐り葬儀準備段階までの苦痛、栄養不足、体重減少、糖尿病合併症など数え切れない死の垣根を超えた。そもそも関わらず私が生存する理由と条件は恵みが六つ有った。

一つが、キム・サンワン牧師先生の訪問だ。「ゴ牧師、癌で天国に行くのは神様の栄光ではないですよ。あなたが死んだらあなた自身は天国に行くからいいものの、しかしこの世の全ての癌患者たちがどれほど失望し、希望を無くすことでしょう。死んでも生きるべきだ。」牧師というのは癌に苦しんでも死ぬ自由はないということだった。

もう一つは、私を知り世界に散らばって住んでいる基督教兄弟たちの祈りだ。これは私が一生をかけても返すことのできない恵みと祈りのツケである。もう一つは主治医の断言だ。筆者が敗血症で5日間脳死になっていた時、主治医が30分後は息がなくなるから葬儀の準備をと言った時に拒否する教会の家族を見て「もしこの状態からゴ牧師が生きられるなら私がキリストになり神が生きておられる神様だと信じましょう。」と仰ったのだ。私は無意識の中だったが神様は私を癒しその医者の魂を救ってくださったのだった。もう一つは、聖徒たちの祈りだ。5日間は旧正月と重なっていたが徹夜で祈っていた。また一つは聖殿建築だった。私は自身の牧会の仕上げを聖殿建築と決めて設計を準備していた。15年の間、私の祈りは「主よ、私が死を恐れず生きて聖殿を建築しこの恵みの奇跡を伝えるようにしてください。」だった。この祈りの通りに1万坪の聖殿を建築して2年前に入堂した。

### 忘れられないイ・イェシュク勧士

そして、最後に一つ伝えたい話がリ・エシュク勧士だ。この方は私から癌が発見された時に同じく胃がん末期診断を受け私と同じ時期に病院に入院した。医者は「おばあさんは85歳の年だから手術する必要がないのでやりたいことがあれば全部やっ

て、食べたい物は全部食べて、残りの人生を楽しく生きてください。癌を友達にしてください。」と言って退院させた。リ勧士は医者に「わかりました。ゴ・フン牧師先生が説教中に、私たちに最後が来た時は恐れずに王の如く祭司として死を歓迎しては天国に行こうと言ってくれました。ゴ牧師先生の手術を宜しくお願いします。」と退院しては、家に帰らず聖殿に向かった。末期患者の身体で講壇の前にひれ伏し私の為に祈った。

「神様、私は末期癌で治療がいらない体だそうです。私の歳が85歳で人生に何の未練があるでしょうか。『わが一生の願いはこれだけ、主に仕えて、この世を去る日は主の御前に立つ…』これは年になって主のしもべが教えてくれた私の讃美歌です。しかし主のしもべのゴ・フン牧師は神様が今呼んではいけません。聖殿建築も残っているし一生をアンサン第一教会の為に捧げました。主のしもべは説教の時にいつも十字架は人に有益になる信仰と教えました。主のしもべの全ての癌を私につけてください。主のしもべは私たちの為に十字架を背負い痛んだ私に有益になって癌がきました。これからは私にください。そして今晚私の命を持っていこうと構いません。」

リ勧士は教会でこの祈りを捧げて倒れた。子供たちに、「私は私の祈りに答えられた。牧師先生に訪ねて神様が私の祈りを受けてください、牧師先生の全ての癌を私にくれると伝えてくれ。」その夜、リ勧士は亡くなった。私が死なないで生きなければならない一番の理由は勧士さんの愛と十字架の犠牲ととりなしの祈りだった。その後、15年を私は生存して無事に70歳で定年引退をした。私は自分なりに聖徒たちに愛を持って牧会したとしたがそれは偽善だ。リ勧士さんは誠に牧師の為に癌さえ奪つて持つていった愛である。†

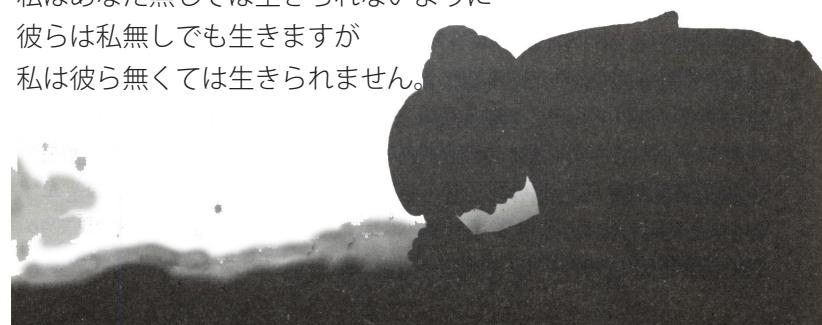
## 病床祈り

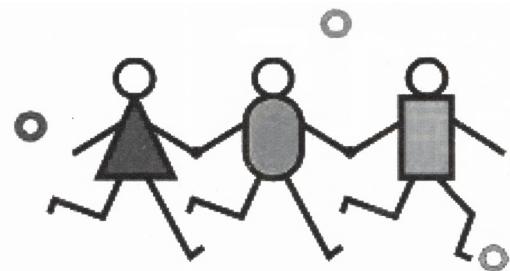
主よ  
どのみち私が病むのなら  
私が代わりに病み  
彼らの病を癒してください。

どのみち私を牧場で休ませるなら  
私が代わりに痛みを受け  
職場を失った人たちに職を  
与えてください。

どのみち私を孤独な場所に送るなら  
私が一人で荒野を彷徨い  
今日泣いている人々と  
共に愛し合えますように

主よ  
あなたがいて私があるように  
彼らがいて私がいます。  
あなたは私గいて生きますが  
私はあなた無しでは生きられないように  
彼らは私無しでも生きますが  
私は彼ら無くては生きられません。





## Turn off Media, Turn on Life

### メディアを絶てば 次の世代が生き残ります

メディア中毒予防の教育委機関、遊びメディア教育センター（所長：コン・チャンヒ）は四旬節（3月1日～4月9日）を迎える毎年「次世代のためのメディア禁止キャンペーン」を展開している。

「スマートフォンを持つようになると、食事中でも、寝床に入つてからも、道を歩いているときでも、ひどい時には、礼拝中や、祈りの時間でも、私たちの目と手、そして心までもそこから離れられずにいることを認めざるを得ません。意図して、スマートフォンを持たないようにしなければならないといった状況まで生まれています」

コン・チャンヒ所長は若く親に死なれた子供から高校生、そして親達にまで、スマートフォンを始めメディア中毒を憂慮し

ている。キリスト教倫理実践運動において活動していたコン・チャンヒ所長は映像物等級委員会に審議委員として関与しながらインターネットゲームの弊害とメディア中毒の問題を真剣に考え2005年、遊びメディア教育センターを設立、メディア中毒予防教育、及び健全な遊びの文化運動を繰り広げてきた。毎年、遊びメディア教育センターでは保護者、生徒、教師、青少年指導者等を対象に実施した関連講演開催の回数が600回に達する。

四旬節を迎える「ミディアを絶てば次の世代が生き残ります」（Turn off Media, Turn on Life）をスローガンに展開するこのキャンペーンは世代の垣根を取り払い個人、家庭、教会、皆が参加することを呼び掛けている。

コン所長は「3人中1人にスマートフォン中毒症状がみられる、韓国の青少年のために韓国の教会が次世代と家庭を、教会が暗闇に打ち勝つ力を育てる時間を作るようにこのキャンペーンに参加するように」と訴えた。

コン・チャンヒ所長は最近、保護者のための講義を多く行っている。講義の内容は最新の脳科学理論からスマートフォンとメディア中毒が我々の体に及ぼす弊害について説明する。楽しさと娯楽と快楽に浸ってしまった脳は、他の平凡な刺激には反応しなくなってしまっている。

「メディア中毒に陥ると礼拝時間はもちろん授業中にも先生の話を聞くことができない。脳が刺激的で楽しいことにしか反応しないようにプログラムされているようなものです」

それでコン所長は青少年達にスマートフォンを使うのを止めさせ2Gの電話機に変えることを勧めている。そして彼はソーシャルネットワークサービス（SNS）中毒も危険だと警鐘を鳴ら

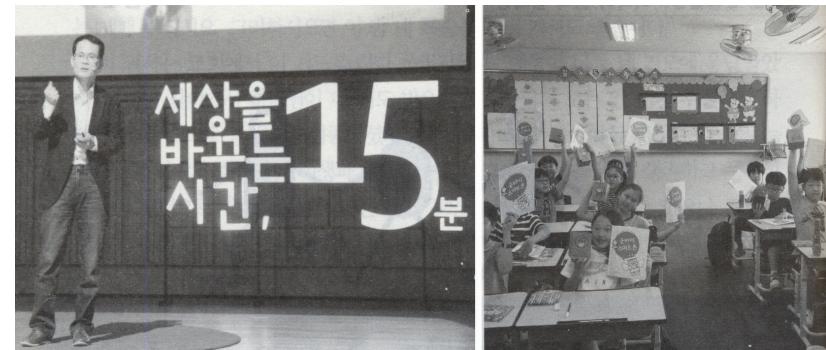
す。「フェースブック、ツイッターなどのSNSサービスがむしろ青少年の社会性と一般の世界との疎通に害を及ぼす要素となっています。友人との間の軋轢が起きれば、直接会って解決する能力がなく、問題がより深くなってしまうことがあります。対話よりも常にスマートフォンでチャットする方が慣れてしまつて問題解決能力が鍛えられにくい状況ですね」

遊びメディアセンターでは2005年から2016年まで毎年、小学校と中学へ行き生徒たちにメディア中毒予防教育を実施しているが興味深い結果が見られた。

「2005年度の小学校6年生と2016年の6年生の問題解決能力を比較すると結果はよくないように見えます。例えば2005年に「歌の歌詞を変えてうたう」という課題を出した時に組別に20分以内に教育意図を理解して、変えた歌詞を皆に提示するだけでなく、実際に歌って見せるところまでやってのけたのに対し、現在の子供たちは2時間あげても同じことができませんでした。意見を戦わせることだけで時間が過ぎてしまいました」

コン所長は礼拝に出ることも楽しい事なのだということを子供たちに教え、親達が先ず率先して見本を示してテレビをなくす、家でスマートフォンを使う姿を見せない、家庭礼拝を行う、などを実践することを提唱している。

「多くの方が家庭礼拝を負担に思うのは聖書の説明が難しいためなのですが、讃美歌を何曲か歌い一緒に聖書の朗読を行い、朗読した御言葉の中で印象に残った御言葉を祈りの言葉として祈るというやり方に礼拝パラダイムを変えてみることで、それほど難しい事ではなくなると思います。主日の公式な礼拝の形式に従おうとすれば、大変だということも理解できます。讃美



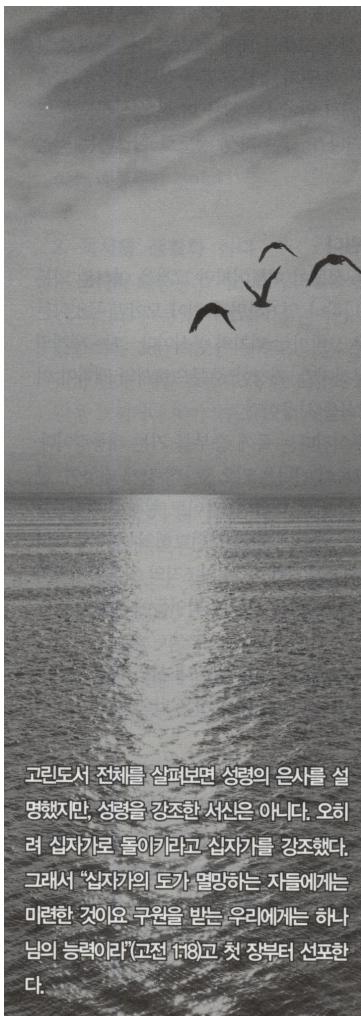
講演中のコン・チャンヒ所長（左）と  
スマートフォン保管箱を使用中の子どもたちの様子

歌と御言葉が語られること、それが礼拝なのです。そしてすべての家族が集まらなければならないという固定観念にも拘らず家に集まれる家族で先ず礼拝を行うことから始めてみてはいかがでしょうか？家族関係も良くなってくると思います」

家庭だけでなく教会でもメディア断食を奨励するところは増えている。教会でテレビの広報を製作して注意喚起する教会、礼拝の時や、区域集会ではスマートフォンを袋に集めて一時、預かる教会、ミディア断食手記の公募展のようなイベントを開き、問題を再認識させるきっかけ作りにしようとする教会など多くの教会でメディア断食に取り組んでいる。

キリスト復活の恩恵にあずかる道は四旬節の期間だけでなく持続的に、私たちの生活ではメディアの毒素を吐き出す作業が必要だ。私たちにとって大切なことは楽しみや娯楽にあるのではなく、神様の国と次世代にあるということを信仰によって実践しなければならない。†

## 清教徒との出会い



고린도서 전체를 살펴보면 성령의 은사를 설명했지만, 성령을 강조한 사신은 아니다. 오히려 십자가로 돌아가라고 십자가를 강조했다. 그래서 “십자가의 도가 멸망하는 자들에게는 미련한 것이요 구원을 받는 우리에게는 하나님의 능력이라”(고전 1:18)고 첫 장부터 선포한다.

私が清教徒（ピューリタン、Puritan）たちの本を避けて来た理由は、あまりにも義を強調し、律法的だという否定的なイメージがあったからだ。だから、今でも私の説教を受け入れられない聖徒たちの反応が理解できる。最も愛を求める若盛りの青年世代の反対は、もっと理解できる。それだから、私もロイド・ジョンソン牧師の本を避けてきた。堅苦しい複雑な文体とイメージが、私をそうさせた。「このように本が分厚くて文が複雑だから、却って福音が伝わるのを妨げているではないか。聖霊の働きが弱いから伝達されないではないか」——私はそう判断した。

ブラジルのアマゾン黒い川で生涯の半分を過ごしながら牧会

されたホ・ウンソク宣教師が、肺がんで亡くなった。彼が亡くなる直前に、清教徒アーサー・ピンク (Arthur Pink, 1886 ~ 1952) の著書、<救い信仰、studies on saving faith>を勧めてくれた。必ず読んでみてと。ホ宣教師はがんが広がって腸が癒着され、腰を伸ばせられない状態にあるのに、彼は癒されることを考えるのではなく、ウェスレーのように救いを思い悩んだ。どうして義認は簡単に、すぐに得られたから、聖化はアマゾンや智異山（チリサン）のような山奥で暮らしてもいいのではないか、と言しながら。しかし私は読めなかった。私が聞いた福音は「良き知らせ」ではなく、「喜びの知らせ」だと思っていた。福音はやさしく喜ばしい、単純なものなのに、清教徒の福音はいとも深刻すぎて、堅いパンのように固くて消化しにくいものだ、という先入見をもっていたからだ。

私は主に喜ばれる福音ではなく、私が喜ぶ福音を追求してきた。そうしながらも、内的には救いの悩みがノアの洪水のように満ちていた。初代教会の信者より聖書を良く知っている今世代の信者は、なぜ、彼らの暮らしにおける生命力はこれほど貧弱なのか。私自身を顧みてももどかしくて仕方がなかった。それで福音は、信仰によって一度に得る義認のように飛び越え、しばらくは聖化のために聖霊を追求した。「信仰によって義とされる」——この義認だけで天国を待っているには少し足りないような気がした。体は洗ったのに衣が汚れているように。

主イエスが十字架上で、「すべてが終わった」（ヨハネ 19:30）と仰せられた福音に対する感激で約束された聖霊を追求するようになったのではなく、むしろ十字架に対する感激と確信が薄いため、十字架より聖霊を追求するようになったのである。義認の基礎が弱いままで聖化を追い求めながら。

だからパウロは、聖霊の賜物が現われたコリント教会へ送った手紙の前半に、「十字架の道が神の御力」だと書き記したのである（Iコリント1:18参照）。雅歌書に十字架と聖霊の働きが比喩で描写されている。「日の涼しくなるまで、影の消えるまで、わたしは没薬の山（the mountain of myrrh）および乳香の丘（the hill of frankincense）へ急ぎ行こう」（雅歌4:6）。十字架を象徴する没薬の山（the mountain of myrrh）であり、聖霊を象徴する乳香は丘（hill）に描写された。驚異的かつ鮮明な象徴である。主が十字架上ではサタンの頭を打ち碎いたけれども、これは山のような大きさであり、聖霊のみわざは、イエスの十字架で頭に傷を負ったサタンの体を打ち碎く、丘のような小さな事なのである。

コリント人への手紙全体を考察すると、聖霊の賜物について説明しているが、聖霊を強調する内容ではない。むしろ十字架に立ち返りなさいと、十字架を強調しているのである。だからこそ、「十字架の言（ことば）は、滅び行く者には愚かであるが、救（すくい）にあずかる私たちには、神の力である」（Iコリント1:18）と、最初の章に宣言しているのである。次の章には、パウロは「わたしはイエス・キリスト、しかも十字架につけられたキリスト以外のことは、あなたがたの間では何も知るまいと、決心」（Iコリント2:2）したのである。第二の手紙には「いつもイエスの死をこの身に負っている。それはまた、イエスのいのちが、この身に現れるだめである」（IIコリント4:10）と書き記した。聖霊の力は他の人々に、地の果てにまで福音が伝播されるためではあるが、イエスのいのちが私たちの身に現れる道は、聖霊の力によるのではなく、イエスの死をこの身に負う、苦難を通してだと彼はいう。

歴史をみると、十字架で成し遂げておかれたことより、祝福と成功により感激するならば、教会は必ず堕落した。そのように、十字架の感激よりもっと喜びを与える聖霊の感動は、惑われやすい。歴史の始まりである天地創造から、イエス・キリストが王の王として再び来られる歴史の終わりまで、キリストが十字架に付けられ死なれた出来事より偉大なことはない。死人のうちからよみがえり容貌は変わられても、手の釘痕と脇腹のやり痕は変えられなかった。復活の生命においても、十字架のしるしはそのように消え去ることはなかった。

反キリストが登場する黙示録の状況の中にも、御使いたちは天上で「屠られた小羊」を唱えたのであって、「復活された主」を唱えたのではない。なぜなら、蛇はイエスのかかとを傷みつけたが、主は十字架上で蛇の頭を打ち碎かれたからだ。だから、御使いたちは「屠られた小羊」をほめたたえたのである。靈である神の御使いにとっては、神の御子がよみがえることは当然なことだからだ。私たちにとっては、十字架上で主が成し遂げられたことより、墓からよみがえられたその御力がより衝撃的なニュースになり得るかもしれない。けれども、その方が天に昇り神の右の座に座しておられることも当然たる復帰であった。ところが、全能なる神の御子が、小羊のように十字架上で死なれたということは、ありえない衝撃だ。神の御子が天の御座を捨ててこの地に来られ、十字架上で死なれた——これは、天においては驚異的な出来事だ。

死人を生かしたりもし、聖霊の力によって用いられた、中国の地下教会指導者はこのように述べる。「今や教会に必要なのは、より大きな力ではなく、より深い死である」と。これが、清教徒たちが集中していた『十字架の福音』なのである。†



## 連合の神学第二ラウンド

長い時間、このコラムを読んで来られた方ならば、私がキリストのみからだなる教会の連合に、どれほど強調点をおいているかわかるはずです。私は、このコラムを「連合の神学第二ラウンド」と呼んでいます。数十年前に、私が教会の連合に対する神学的土台について研究していた頃、このシリーズの文章を書いたからです。私は、これが価値のあるものだと信じています。連合に対する神学的土台を知りたい方は、信仰界に連載された2006年5月号から9月号の文を読んでください。

ところが最近になって、主はある思い、つまり神学的合意を追求する前に先行されるべきことがある、という思いを与えてくださいました。それはすなわち、『悔い改め』と『赦し』です。この「第二ラウンド」は、実際に「第一ラウンド」よりも前にくるべきものです。なぜなら、ある知的、学問的合意も『悔い改め』と『赦し』を通して、心の準備ができてこそ持続されるからです。

主がみるに教会の連合がいかに重要であるか、そして私がなぜこんなに教会の連合を強調しているかを説明するために、よく引用する話があります。この話は、主が北朝鮮の開放を準備するこの働きに、私がどのように召されたかということです。

私が韓国に戻って来て、イエス院の三水嶺（サムスリヨン）牧場にサムスリヨンセンターを設立することを望んでおられる神の

召命を悟って間もなく、ある日の朝のことです。私は歯を磨きながら祈っていました。（このように他のことをしながらも、心の中に主と対話するときがしばしばあります）。私たちが韓国に戻った場合、家族を養いながらそのようなセンターを建てるためにはどれほど多くのお金が必要なのか、主に話していました。

そのように心の中で主に叫び求めていましたが、突然、主の御声が、殆ど耳に付けて話しているように、強く近寄ってきました。「お金についてはわたしに言うな！」——このような思いがあまりにも強く聞こえたので、私は歯磨きを止めました。主は継続してこのように仰せられました。「わたしはあなたのために戦う。わたしから命じられた事をする時、必要なすべてはすでに持っているということを見るであろう。お金については言うな」——この主の御声を聞いて、私は心が重苦しくなりました。

再び歯を磨き、その日の一日を準備しながら、主が仰せられたこの新しい種類の信仰の意味をじっくり考えてみました。供給してくださいと祈らなくても、主が備えてくださると信じ、従順して進んでいくこと——これは、私が今まで訓練してきたことであり、イエス院でも強調してきたことです。私たちの必要を神に要請しないことでした。私は主の仰せられたこの言葉があまり心地よく思えませんでした。それは、主に助けを要請していた頃に戻ることを意味します。その後も、何時間もこのように思い悩んでいて、遂に私の祈りが始まるべき支点に至りました。

私は主に話しました。「主よ、それならば私がどのように祈ることを願っておられるのですか？」主は直ちに応答されました。「韓国教会の連合のために祈りなさい。」私はこのように答えました。「主よ、私には、それほどどの信仰はありません。

教会が連合されることを信じるより、天から金を降らしてくださいと祈るほうが簡単です。」

このように私は考え続けていました。主はこれが神の御旨であり、私が宣言すべきメッセージであると、そして数十万人の前でこれを宣言する機会が与えられるであろうという強い思いがしました。そして、本当に小さな信仰ですが、私がそれに従順した時、祈った時に与えられた通りに成就しました。その時、私はこれが北朝鮮の開放のための最も重要な準備であり、神が望まれる『連合』のための根本的要件であると悟りました。

今まで教会連合の必要性と、実際それが成就すると信じられない時の自分と、奮闘で話を締めくくっていました。しかし、もはやその最後の部分を変えるべき時が来ています。神は、真に神の御旨が成就されるように働き、至る所でその証拠が現われています。キリストのみからだなる教会の連合の働きに対し、敵はそれを打ち破ろうと熱心になっていることを、見て取ることができます。今まで敵はどれほど素早く連合のための働きを攻撃し打ち壊してきたか、見てきました。連合のためのすべての勝利は即時に抵抗を受けます。ですから、警戒を緩めることはできません。しかし、これからどう進めていくべきか、聖霊様が示してくださいます。聖霊の動きがあります。

ところで最近は、主がより根本的かつ驚異的な御業を行なっています。聖霊様は、神の人たち、教会指導者たちが自分の罪を悟り、公開的に告白し、涙をもって悔い改める御業を起されています。また、聞く人たちの心を動かし、すぐさま赦し和解するようにされます。神が私たちの自尊心と名誉欲、地位欲、統制欲にうち勝てるようになります。

大型教会の担任牧師、その地域と教団だけでなく、国家においても非常に尊敬される牧師が、聖徒たちの前で「私は愛が足りませんでした、自分の力で統制しようとした」と、赦しを請う姿を目にしたことがあります。とても感動しました。その牧師は妻や子どもたちに、家族より牧会を優先してきたことによって傷を与えたことを、泣きながら赦し求めました。それだけでなく聖徒たち、特に若者たちが赦し合いの抱擁をし、自分も赦しを請い求めました。

また今は引退しましたが、尊敬されるある牧師は、聖霊様が自分の罪を悟らせてくださるように祈り、教会の聖徒たちを自分の力でどうにかしようとしたことを悔い改める姿も見ました。様々な教団から来られた牧師が自身と教会を赦してくださいますように、また悔い改めと癒し、連合が与えられますように、神に願い求めました。

神は今も生きて働いておられます。神を賛美しましょう。このような悔い改めの動きが徐々に大きくなり、国全体を変える復興の波となれますように祈ります。

### 悔い改め、なおも悔い改めよう

私たちは歴代誌下七章一四節の御言葉をよく知っています。「わたしの名をもってとなえられるわたしの民が、もしへりくだり、祈って、わたしの顔を求め、その悪い道を離れるならば、わたしは天から聞いて、その罪を赦し、その他をいやす」——これが基本となるのです。私たちは自ら低くなつて祈らなければなりません。神の御顔を慕い求めなければならぬのです。キリストが私たちを愛されたように人々を愛さなかつた罪、神なる聖霊に教会と共同体、家族を委ねられず、己の力でどうに

かしようとした罪からもはや離れるべきです。心のうちにあるすべての罪を悔い改め、周辺の人々と、そしてイエス・キリストの教会と和解しなければなりません。

私たちは何となく愛を語りながらも、主の教示された本当の意味をどれほど無視していたでしょうか。

「わたしは、新しいいましめをあなたがたに与える、互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。互いに愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう。」（ヨハネ 13:34～35）

この「新しいいましめ」は、キリストが私たちを愛されたように——十字架で私たちのためにご自分の命を差し出すまでの愛——私たちも互いに愛し合うのです。私たちは、他の人のために苦痛や苦難、死までも喜んで迎え入れるほどに、互いに愛し合わなければなりません。まさしく、この愛が私たちを一つにならしめてくれるのです。イエス・キリストが私たちのために父なる神に祈られたのも、やはりこの愛でした。この愛によって連合する時、闇の中で彷徨う人々は私たちを通じてキリストを見るようになるでしょう。まさしく主は、これ待っておられます。北朝鮮の門が開かれる前に、キリストのみからだなる教会が連合されることを待ち望んでおられるのです。主は、北朝鮮にいる人々がこのようにきよく、一つになった教会を見て、信仰をもつようになってほしいと願っておられます。

私たちみな、聖霊によって罪を悟れますように！

愛のないことや、イエス・キリストの教会を打ち壊したすべての行為を悔い改められますように！ 聖霊様ここに来れれ、私たちを一つにならしめてください。アーメン。 †

---

発行：純福音東京教会・出版部

【翻訳】：諸星健児 執事、林俊秀教育生、間杉綾乃 執事、朱水晶 執事、李珍 執事、  
山野永理 勘士、朴秀珍 執事、趙芝賢 伝道師、澤田義則 執事、金景娥 執事、  
朴宰完 按手執事、金澤由紀子 勘士

【日本語校正】：諸星健児 執事、松谷恵理 執事、佐野綾 執事、間杉綾乃 執事、金澤由美 姉妹、  
吉田綾子 執事、笠原幸子 執事、武石みどり 執事、向川誉 執事、澤田義則 執事

【印刷・製本】：間杉典生 按手執事

【再編集】：金澤由紀子 勘士

---